

2015（平成 27）年度 理工学部自己点検・評価報告書

1. 「学習成果の可視化」に向けた取り組み

（1）現状の説明

実施した教育方法に対して成果が得られているかをモニターするために、学生の理解度や習熟度に関する教育的効果を反映している各講義の成績評価（小試験、レポート、定期試験）がある。また、学生による授業アンケートを実施し、学生による授業の理解度の評価項目および授業に対する満足度の評価項目をモニターしている。そして、理工学部全体で授業アンケートの分析を行っており、授業の理解度の評価項目および授業に対する満足度の評価項目を中心として解析を行っている。

（2）点検・評価

1）効果が上がっている事項

演習や実験を伴う科目では、ほぼ毎回出される小テストや課題レポートにより随時可視化が図られている。特に PBL として情報システム工学科では昨年度から、共生創造理工学科では本年度から導入された「プロジェクトスタディーズ」では、グループ単位のプロジェクトについて企画・中間・最終の各報告書を各受講者が作成し、最終的には相互評価を加味した成績評価を行っており、担当教員、TA、受講生それぞれにとって学習の進捗が随時見えるようになっている。

2）改善すべき事項

現状でも学習成果の可視化はある程度行われているが、今後さらにラーニングアウトカムズを意識した科目全般の学習成果の可視化が必要である。特に講義科目における可視化は、TA の補助によるきめ細かな小テストや課題の実施が必要と思われ、十分な TA の確保が課題である。

（3）将来に向けた発展方策

1）効果が上がっている事項

TA を積極的に利用している科目は、講義科目でも可視化が進んでいる。

2）改善すべき事項

TA の充実と、ICT 利用による教員側の負荷低減により、効率の良い可視化の方法を確立すべきであろう。

（4）根拠資料

2. 認証評価結果に関する事項（努力課題等の指摘事項は必須）

（1）現状の説明

認定評価結果に関する質問事項については、事例で示すような項目ごとに回答案が報告されている。例えば、

<事例 1>

4. 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針—(1) 2015(平成27)年度から改組されるそうですが、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を、どのようなプロセスにより方向性を決められたのか、資料に基づいてお示しください。また、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するシステムを作られ、明文化されているかお教えてください。

<分科会回答案報告書>

工学部の理工学部への改組にあたっては、学長のもとに理工学部改組準備委員会が設置され、さらに工学部長のもとに改組分科会が設置されて具体的な改組案の検討を行いました。理工学部設置認可申請に向けてこの分科会で新学部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の原案を策定しました。この原案が工学部教授会で審議検討され、理工学部改組準備委員会において決定されるというプロセスをとりました。

新理工学部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するシステムは、学部長ならびに教授会のもとにおく理工学部教務委員会が主体となって検証が行われることとなります。検証結果は学部教授会で審議がなされ、最終的には学部教授会の責任において検証を終え、改善につなげることとなります。

(2) 点検・評価

1) 効果が上がっている事項

情報システム工学科では昨年度、共生創造理工学科では本年度より、新しいカリキュラムが開始され、PBLや多様な進路へのきめ細かな対応など、当初の目論見通りの教育運営が実施できている。理工学部への改組に当たって掲げている項目ごとの中身を実施する上で起きる課題を集め、検証・改善を図って行こうとする教員の意識が高まっている。

2) 改善すべき事項

現状でも学習成果の向上が見られる授業・科目があるが、今後さらにラーニングアウトカムズを意識した科目全般の学習成果分析が必要である。

理工学部への改組にともない学部WEBサイトを刷新したが、内容は十分とはいえず、3ポリシーの公開にとどまらず、様々な教育の取り組みについても広く情報公開を進めるべく、充実を図る必要がある。

多様性への対応から履修科目の選択の自由度をもたせたが、情報システム工学科では新カリキュラム2年目に入り、学生が単位数あたりの最低限必要な学習時間が短い科目を優勢するなど、一部に安易な履修科目選択の傾向が見られる。

(3) 将来に向けた発展方策

1) 効果が上がっている事項

授業アンケートシンポジウムなど学部独自のFD活動も引き続き行われ、理工学部の教職員と学生の代表による学部協議会も定期的開催され、学生と教員間の意識の疎通も、ある程度確保できている。

理工学部内の広報委員会にて情報公開の方法も議論する場はできている。

2) 改善すべき事項

学部WEBサイトの充実をはかり、教育・研究への取り組みを更に広く周知させる。

改組に伴う規程の改定・策定は、必要年度に応じて随時進めていく。教員の採用・昇任

基準の内規については、当面は旧学科のものを援用するが、大学院改組の議論とともに今後の方針について現状維持の案も含め検討する。

学生の学習意欲と単位数、必要学習時間などのバランスを考慮したカリキュラム編成を考えるべきであろう。

(4) 根拠資料

3. 教職課程における点検・評価（領域内の項目は別紙参照）

(学部)

領域1：教職課程の理念・目的

別紙のとおり定めた。

領域2：教職課程カリキュラム

学科ごとに定められたカリキュラムが順調に運営されている。

領域3：学生支援

1年次に教職EPのクラスを設け、その後の受講計画や、進路のアドバイスを行っている。

領域4：教員

教職関係専門科目の担当者は、科目の趣旨に応じて授業計画を立てそれに沿って授業を実施している。今後、教員の定年退職や新規採用などにより担当が変わる場合も、引き続き適切な授業が行えるよう、学科長、学科教務委員を中心に、意識の徹底をはかり、必要があればシラバスや授業アンケートなどによりチェックする。

領域5：成果

理工学部への改組後まだ卒業生はいないため、工学部での成果を参考として掲載する。

過去5年の免許取得者数は以下のとおりである。平成23年数学10、理科10、平成24年数学9、理科21、平成25年数学12、理科9、平成26年数学10理科8、平成27年数学11理科4。

過去5年の現役合格者数は以下のとおりである。平成23年数学4、理科1、平成24年数学1、理科4、平成25年数学5、理科3、平成26年数学0理科1、平成27年数学3理科0。

(研究科)

領域1：教職課程の理念・目的

領域2：教職課程カリキュラム

領域3：学生支援

領域4：成果